

〔資料〕

公衆衛生看護学の教科書的文献において説明されている保健師活動

松下 光子¹⁾ 梅津 美香²⁾ 大井 靖子¹⁾ 堀 里奈¹⁾ 山田 洋子¹⁾

Public Health Nursing Practice in Textbooks of Public Health Nursing

Mitsuko Matsushita¹⁾, Mika Umezu²⁾, Yasuko Ohi¹⁾, Rina Hori¹⁾ and Yoko Yamada¹⁾

I. 目的

行政保健師の活動は、地域生活集団を対象とし、地域の健康課題の解決を目指して行われる看護活動である。筆者らは、行政保健師の実践活動事例の分析を通して、行政保健師の活動について、看護者と対象者の2者関係という看護の基本構造に基づいてその成り立ちを説明し、かつ、保健師の実践活動の推進に役立つ看護モデルの開発に取り組んでいる。

日本の行政保健師の活動を説明するモデル開発の取り組みには、未解決の地域ケアシステムの構築をプロセスとして整理したもの（山口，2014）や、保健師活動における行為目的を構造的に整理したもの（田口，2005）などがある。しかし、看護者と対象者の2者関係を基盤として保健師活動を説明するものは見当たらない。

保健師活動を看護者と対象者という看護の基本構造に基

づいて説明することは、看護活動としての保健師活動のあり方を明確にする。また、地域生活集団に焦点をあてた看護について、患者等の個人を対象とした看護と同じ考え方でとらえることを可能とし、多様な看護職が地域を視野において看護実践を行う基盤を作ることになると考える。

本稿は、看護モデル開発の検討において取り上げる保健師の実践活動事例の適切性や看護モデルの内容として必要な要素を検討する際の基礎資料を得るために、公衆衛生看護学の教科書的な文献において、保健師活動がどのように説明されているかを確認することを目的とした。

II. 方法

表1の8文献を対象とした。これらは、2018年12月時点で出版されていた公衆衛生看護学の教科書的な文献のすべてである。各文献について、担当者を決めて読み、以下の

表1 対象とした公衆衛生看護の教科書的な文献

No.	書名	出版社	編集担当者	出版年・版刷
1	最新保健学講座1 公衆衛生看護学概論	メヂカルフレンド社	金川克子	2013年・第3版 第3刷
2	公衆衛生看護学テキスト1 公衆衛生看護学原論	医歯薬出版	麻原きよみ他	2014年・第1版 第1刷
3	最新公衆衛生看護学 第3版2019年版 総論	日本看護協会出版会	宮崎美砂子他	2018年・第3版
4	標準保健師講座 公衆衛生看護学概論	医学書院	（著者代表） 標美奈子	2018年・第4版 第6刷
5	公衆衛生看護学.jp 第4版データ更新版	インターメディカル	荒賀直子他	2018年・第4版 データ更新版第5刷
6	公衆衛生看護学 第2版	中央法規出版	上野昌江他	2016年・第2版
7	保健の実践科学シリーズ 行政看護学	講談社	金子仁子	2017年・第1刷
8	展開図でわかる「個」から「地域」へ広げる保健師活動	クオリティ・ケア	守田孝恵	2013年・第1版 第1刷

1) 岐阜県立看護大学 地域基礎看護学領域 Community-based Fundamental Nursing, Gifu College of Nursing

2) 岐阜県立看護大学 成熟期看護学領域 Nursing of Adults, Gifu College of Nursing

6つの視点から記載内容を取り出し、表に整理した。6つの視点は、当該文献の対象読者等を確認するために①当該文献発行の背景、各文献が前提としている考え方等を確認するために②保健師活動を説明するときに基盤となっている考えはどのようなものか、③当該文献において「看護」をどのように説明しているか、保健師活動そのものの説明内容を整理するための視点として④保健師活動の目的、⑤保健師活動の対象、⑥保健師活動の方法である。各担当者が取り出した記載内容を一覧表にするとともに全員で共有・検討した。次に視点ごとに文献から取り出された記載内容を読み、複数の文献で共通して取り上げている内容と1つの文献のみで取り上げている内容を確認した。

Ⅲ. 結果

結果では、引用において引用頁を全て記載する。

1. 当該文献発行の背景

発行の背景は、各文献の序文等を確認したところ、すべての文献が学生による活用を意図していた。文献7（池田ら，2017，p. iii）と8（守田，2013，p. iv）は、保健師の活用も意図していた。

文献1～6は、書名に「公衆衛生看護学」とあるが、文献7は「行政看護学」であり、行政保健師の活動に焦点化している。文献8は著者らが開発した展開図に基づき保健師活動を説明している。

2. 保健師活動を説明するときに基盤となっている考え

複数の文献で取り上げていた内容は、1) 公衆衛生看護、在宅看護と地域看護、2) 公衆衛生と公衆衛生看護、3) 公衆衛生看護とは、保健師活動とは、のそれぞれの意味である。また、4) 地域看護管理は、1つの文献のみで取り上げていた。

1) 公衆衛生看護、在宅看護と地域看護（文献1、3、6）

文献1と3において、「公衆衛生看護」は、地域社会を構成している住民全体を中心にした活動（金川，2013，p. 2）、個人・家族だけでなく特定集団や地域住民全体に焦点をあてた活動（宮崎，2019，p. 3）としているのに対して、「在宅看護」は、病人とその家族のケアを中心とした活動（金川，2013，p. 2）、在宅療養者と家族に焦点をあてた活動（宮崎，2019，p. 3）と説明している。「地域看護」は、文献1では、在宅看護と公衆衛生看護に分かれる（金川，2013，p. 7）、文献3では、「公衆衛生看護」と「地

域を基盤においた看護」を統合する機能（宮崎，2019，p. 6）、文献6では、地域看護活動として、予防から在宅ケアまで地域の幅広い看護活動が含まれる（上野，2016，p. 10）としている。いずれも、「地域看護」は「公衆衛生看護」よりも広い範囲を指すと位置付けている。

2) 公衆衛生と公衆衛生看護（文献2、4、6、7）

文献2と7は、「公衆衛生」という視点から主に説明しており、文献2では、「公衆衛生」は、社会として組織的に行うもの（麻原，2014，p. 2）であり、保健師は、自治体や事業所、学校などの組織の一員として、他の職員とともに公衆衛生活動を実施する（麻原，2014，p. 6）、文献7では、行政に所属する保健師の公衆衛生活動について、「人権としての健康」の保障を目指し、地域の実態に即して、そこで暮らす人々の健康を阻害する要因を阻止したり、除外したりする活動を通して、地域で暮らすすべての人々が健康で自分らしく生きていけることを支えること（三輪，2017，p. 4）としている。文献4と文献6では、「公衆衛生看護」の説明として、文献4は、公衆衛生を基盤にした看護活動（標，2018，p. 3）、文献6は、公衆衛生の目的を達成するために、看護の知識・技術を活用して行う活動（上野，2016，p. 2）、としている。

3) 公衆衛生看護とは、保健師活動とは（文献1～8すべて）

文献2は、保健師活動におけるものの見方や考え方は、公衆衛生看護学が基盤となる（麻原ら，2014，p. iv）、文献5は、保健師の活動について、公衆衛生看護活動と呼ばれる（荒賀ら，2018，p. 3）、と述べている。公衆衛生看護の内容としての説明を確認したのは、文献1、3、4～7であり、保健師活動の内容として説明を確認したのは、文献2、5、7、8である。「公衆衛生看護とは」では、文献1は、地域住民や対象集団全体を視野において、健康の保持や増進、予防的観点から日常生活習慣の管理やセルフケアの浸透を図るといった集团的対応（金川，2013，p. 2）、文献3は、個人・家族だけでなく特定集団や地域住民全体に焦点をあてた活動（宮崎，2019，p. 3）としている。文献4は、健康レベルを問わず地域で生活している全住民を対象に、住民の生活の現実を把握し、健康問題への取り組みと予防活動を組織的に行っていく活動（標，2018，p. 3）、文献5は、公衆衛生看護活動のコアとなる役割として、地域住民の健康・QOL向上に寄与する、人々の生活を社会背景の中で把握し、健康との関連を考察し、予防活動

を展開する、(荒賀ら, 2018, p. 4) など6つを挙げている。文献6は、個人・家族の健康問題の支援を通して地域の保健医療活動の推進を図る、対象とかわり、対象の問題を公衆衛生活動に反映させ、これらにより個人・家族の健康状態をより良いものにし、ひいては地域全体の健康状態をより良いものにする(上野, 2016, p. 2) など、文献7は、公衆衛生看護の定義として「担当地区における個人と家族、集団、組織、地区全体を対象として、担当地区の健康状態及び社会経済環境の実態を把握し、それらに関連させて、生活に視点を置いて、個々の地区住民や地区全体の健康管理能力の向上を支援する。加えて、健康問題解決に向けた政策化をすることで、社会経済環境を整え、生活過程を整えること」(三輪, 2017, p. 4) としている。

「保健師活動とは」は、文献2は、保健師は直接的な個人へのケアを行いながら、健康な地域づくりや施策化を行うことができる看護実践者である(麻原ら, 2014, p. iii)、文献5は、人々の生活や健康状態に悪い事態が起こらないように前もって防ぐための活動、人々の健康を守り、生活状態を改善し、地域全体の人々の生活の質(QOL)を向上させる活動(荒賀ら, 2018, p. 3)、文献8は、「個」を大切に丁寧に対応しながら「地域」を対象とした活動として展開する独自の方法論をもつ(守田ら, 2013, p. 2) としている。

4) 地域看護管理(文献1)

文献1では、在宅看護と公衆衛生看護を結びつけ、事業化やシステム化・施策化につなげる活動を「地域看護管理」(金川, 2013, p. 7) としている。

3. 「看護」をどのように説明しているか

「看護」の説明は、文献1、5、6、7、8の5文献で記載を確認した。

複数の文献で取り上げていた内容は、1) 看護の考え方や看護の要素、2) 地域での看護活動の特徴に関する記述である。また、1つの文献のみで取り上げていたのは、3) 看護技術である。

1) 看護の考え方や看護の要素(文献1、5、6)

文献1は、看護の仕事は様々な健康レベルの人々を対象に病気による症状や苦痛を緩和し、日常生活や地域社会に適応できるように援助すること、また、人々の正常な成長や発達、老化の過程を助け、その人らしい生活が遂行できるように手助けすることとし、看護学の要素を人、環境、

健康、看護介入としている(金川, 2013, pp. 6-7)。文献5は、「看護職は、患者の疾病のみをみるのではなく、専門的な援助が必要な対象として、患者の全体をとらえる。そこで、疾病の進行プロセスも治癒過程なども異なる個々人に対して、対象者その人の個性や特性に応じた援助を行うことが求められる。そのためには、患者及び患者の健康生活に影響を及ぼす要因や内容をよく理解したうえで、看護を展開していくことが基本となる」(櫻木, 2018, p. 97)、文献6は、看護の基本概念として、アンダーソンらが示した人間、環境、健康、看護の主要概念を説明するとともに、「相手の生活を変える指導ではなく、相手の生活を受容し、そのニーズを理解し、生活を支える」という支援方法を看護の基本としている(上野, 2016, pp. 3-5)。

2) 地域での看護活動の特徴(文献1、5、6、7)

看護の考え方との関連で地域での看護活動について述べている内容である。文献1は、地域看護の活動においても、看護の考え方は基本的に同じである(金川, 2013, p. 6) としながら、公衆衛生看護学では、家族や特定集団で構成されている地域全体を視野に置き、各々のセルフケア能力の向上、家族、地域の力量を高めるようなコミュニティケアを目指しているところに特徴がある(金川, 2013, p. 9) としている。文献5は、保健師が地域で活動を実践する場合、対象を患者個人から地域という集団に置き換えて考えると、地域での活動の過程が、根本的に個々の看護過程と同じである(櫻木, 2018, p. 97) とし、文献6でも、公衆衛生看護における看護は他の領域の看護活動と同様に、看護過程に基づいて展開される(上野, 2016, pp. 4-5) としている。また、公衆衛生看護活動を進めていくにあたって重要なことは、展開する場にいる人々(地域で生活するすべての人々)の主体性であり、公衆衛生看護を行う専門職の役割は、彼らの主体性をいかに引き出すかということであり、住民とのパートナーシップが重要である、(上野, 2016, p. 5) として、これは、看護の基本の支援方法としている。文献7は、病人の看護にとどまらず疾病の予防さらには積極的に健康を維持増進させるための活動を含むものとして拡大してきた(金子, 2017, p. 2) としている。

3) 看護技術(文献8)

地域看護における基礎看護技術の応用として、「保健師

が対象を理解しようとしていることが相手に伝わり、対象も保健師を受け止め理解する。この関係性の構築が、対象の行動変容へのかかわりの出発点となる。対象との信頼関係の構築を経て、健康課題の解決に向けたアセスメントや解決のための方法を対象者自身が考え、行動するプロセスへと導いていく」(守田ら, 2013, p. 7) としている

4. 保健師活動の目的

保健師活動の目的は、文献5以外の7文献で記載を確認した。

複数の文献で取り上げていた内容は、1) 住民の健康に関すること、2) 生活の質や豊かさに関すること、3) 地域社会のあり方に関することの記述である。1つの文献のみで取り上げていた内容は特になかった。

1) 住民の健康に関すること (文献1、2、3、4、6、7、8)

7文献すべてに記載があった。文献2は、「社会で生活する人々(集団)の健康の保持・増進と安寧」(麻原, 2014, p. 3)、文献4では、「地域で生活するあらゆる人々の健康を看護の立場から保持・増進し、疾病を予防していくこと」(標, 2018, p. 3)、文献6は、「地域の健康状態の向上」(上野, 2016, p. 8)、文献8は、「住民の健康のため」(守田ら, 2013, p. 5)とある。文献1では、「地域で生活している人々の健康と生活の質の向上を意図したもの」として、さらに活動の目標として、個人や家族が地域の健康問題や暮らしやすさ、環境衛生上の問題に関心を持つようになること、問題の解決に積極的になれること、問題の解決に際して地域の社会資源や制度の有効な活用が図れるようになること、を挙げている(金川, 2013, p. 7)。文献3は、地区活動で目指すものを「受け持ち地区の住民の健康を守る責任を果たすこと」とし、住民の健康意識の向上、生活共同体における問題解決、ヘルスケア資源の活用と組織化などを挙げる(北山, 2019, pp. 108-111)。文献7は、地区活動の目的として「住民一人一人の健康意識の向上と問題解決能力の育成」「地域住民が自分たちの地域の健康問題に気づき、解決していくことを支援する」(金子, 2017, p. 10)を挙げている。

予防という視点では、文献4に疾病の予防(標, 2018, p. 3)とある他、文献3において公衆衛生看護の活動目標として「予防活動への貢献の追求」(宮崎, 2019, p. 11)を挙げている。

2) 生活の質や豊かさに関すること (文献1、2、3、)

上記文献1で生活の質の向上(金川, 2013, p. 7)、文献2で安寧(麻原, 2014, p. 3)とある。文献3は、公衆衛生看護の活動目標として、「人々の社会生活を豊かにすることの追求」(宮崎, 2019, p. 9)、保健師が地域ケア体制の構築において目指すものの1つとして「人々が地域の中で安心して豊かな生活を送れること」(春山, 2019, p. 288)としている。

3) 地域社会のあり方に関すること (文献3、7)

文献3は、保健師が地域ケア体制の構築において目指すものとして「人々の健康生活上のニーズを充足するための地域資源の充実」「地域資源が個々のニーズに合わせて機能すること、ノーマライゼーションの実現と、助け合える地域社会」(春山, 2019, pp. 289-291)を挙げ、文献7は、公衆衛生看護活動の目的として「担当地区で暮らすすべての人々が共同してより生活しやすい地域社会となるように支援すること」(三輪, 2017, p. 5)としている。

5. 保健師活動の対象

保健師活動の対象は、全文献で記載を確認した。

複数の文献で取り上げていた内容は、1) 個人、家族、集団、地域など複数の対象、2) 個人と集団や地域との関係に関する記載である。1つの文献のみで取り上げていた内容は特になかった。

1) 個人、家族、集団、地域など複数の対象 (文献1、2、3、4、5、6、7、8)

文献1は、「地域での看護の対象は、地域で生活している普通の人々である」(金川, 2013, p. 6)として、さらに公衆衛生看護学に関連して重要と思われる概念として、地域(コミュニティ)、特定集団、家族を説明している(金川, 2013, pp. 9-10)。文献2では、個人・家族、集団、組織、地域、社会を対象として挙げている(佐伯, 2014, p. 35)。文献3では、個人、家族、特定集団、地域住民全体を働きかけの対象としている(宮崎, 2019, p. 4)。文献4は、個人・家族、グループ、組織、地域(渡部, 2018, p. 24)、文献5は、個人、家族、集団、そして、組織、地域のさまざまな人々(荒賀ら, 2018, p. 7)としている。文献6では、公衆衛生看護活動の対象である人間とは、地域で生活する個人・家族、集団(育児、介護、疾病、障害等で同様な課題をもつ)そして地域である、としている(上野, 2016, p. 3)。文献7では、「担当地区に暮らすすべての人々」を対象とし、その中で、潜在化したニーズのあ

る未受診者などの対象を区分している（三輪，2017，p.5）。文献8では、「個」「集団」「地域」に区分し、保健事業の参加者は「個」、保健事業はその「個」の集合体である「集団」を対象とする（守田ら，2013，p.5）としている。

2) 個人と集団や地域との関係（文献1、2、3、5、8）

5文献で記載を確認した。文献1では、「地域で生活している人々は家族や地域社会の一員であり、多くの場合は、学校や職場に所属している」（金川，2013，p.6）と説明している。文献3は、「全住民を一括して集団としてとらえるのではなく、集団の一人一人をサービスの対象としてみて、それぞれの援助ニーズに対応することになる（北山，2019，pp.112-113）、文献5は、「人間の生活と、個人が属する家族・集団に注目することが必要となる」（荒賀ら，2018，p.8）、文献8では、「集団」を構成する「個」を把握しつつ、参加者同士がどのような関係性をもっているのか、「個」と「個」の関係性の集合体である「集団」を対象としてとらえ、…（略）…地域へと広げていく（守田ら，2013，pp.5-6）と、個人と集団や地域を関連させた捉え方を示している。文献2は、個人・家族、集団、組織、地域、社会の対象は、相互に作用し、影響するという複雑な関係と構造を成しているとして、システムの見方を説明している（佐伯，2014，p.35）。

6. 保健師活動の方法

保健師活動の方法は、全文献で記載を確認した。

複数の文献で取り上げていた内容は、1) 看護過程、PDCAサイクルでの展開、2) 体制づくり、システムづくり、資源づくり、3) 多様な手段を連動させ同時進行させる総合的な展開、4) 個と地域や集団の関係からの説明である。1つの文献のみで取り上げていた内容は特になかった。

1) 看護過程、PDCAサイクルでの展開（文献1、4、5、6、7、8）

6文献で確認した。文献1は、「個々の患者に対する看護過程の展開と同様に、家族や特定集団、地域全体の査定と健康問題の明確化、看護活動の計画・実施・評価などの機能が含まれる」（金川，2013，p.8）、文献5と文献6でも個人を対象とした看護過程と同じく集団や地域を対象とした看護過程であると説明している（櫻木，2018，p.97；都築，2016，p.120）。文献4では、活動の計画・実践・評価のPDCAサイクルを取り上げ（標，2018，pp.108-109）、文献7では地区診断についてPDCAサイクルを使って説明し（大野，2017，pp.218-219）、文献8では保健師活動の展開はPDCAサイクルを回す過程として展開図に示して説

明している（守田ら，2013，pp.12-16）。

2) 体制づくり、システムづくり、資源づくり（文献1、2、3、4、5、6、7）

文献8以外で記載を確認した。文献1は、地域看護サービスを創出、開発する機能を保健師の役割として挙げている（金川，2013，p.9）。文献2は、公衆衛生看護の機能の一つとして、社会資源をつくり公正に配分する（麻原，2014，p.12）、文献3は、地域ケア体制の構築（春山，2019，pp.286-298）、事業化・施策化（市川，2019，pp.309-319）、さらに地域づくりなど（春山，2019，pp.298-304）も述べている。文献4は、地域へのアプローチとして地域ケアシステム・支援ネットワークの構築を挙げ、また、施策化・事業化についても取り上げ（中村，2018，pp.104-106）、文献5は、地域ケアシステムづくり（榎本，2018，pp.166-171）、文献6は、地域ケアシステムとネットワーク形成（曾我，2016，pp.117-118）、文献7は、地域ケアシステムと保健師の役割（金子，2017，pp.200-212）について述べている。

3) 多様な手段を連動させ同時進行させる総合的な展開（文献2、3、6）

3文献で確認した。文献2は、公衆衛生看護の機能として、①健康課題を見出す、②健康課題に確実に対応する、③社会資源を作り公正に配分するの3つは日常実践において同時進行で行われる、としている（麻原，2014，pp.11-13）。文献3は、公衆衛生看護における働きかけは、個人・家族に相談的・教育的にかかわったり、特定集団にプログラムを提供する形態でかかわったり、地域住民全体に対してさまざまな地域内の協力者と連携しチームでかかわったりするなど、多様な手段を組み合わせで展開される（宮崎，2019，p.4）としている。文献6は、公衆衛生看護活動の展開方法には家庭訪問、健康相談・（略）・などがあるが、これらは独立したものではなく、適切な方法を選んで連動させることで効果的な支援を展開することができる（三橋，2016，p.79）としている。

4) 個と地域や集団の関係からの説明（文献6、7、8）

3文献で確認した。文献6は、保健指導は個々人の取り組みを支援することはもとより、対象者に応じて関係機関との連携を行いながら地域に出向いて展開する、地域に根差した地区活動の重要な取り組みの一つとしている（和泉，2016，p.57）。文献7は、「公衆衛生看護の活動は「予防」

をミッションとしているため、担当地区全体をとらえることを念頭に置き、地区住民と直接かかわりながら、個人・家族、集団・組織、地域を相互に関連させると同時に、健康問題と生活および社会経済環境を関連させて、問題や課題を明らかにし、健康を阻害している要因を取り除くような予防的な活動方法をとる。さらに、問題や課題については、担当地区住民との共通認識を図り、協働して解決することを活動基盤とし、個人・家族へのアプローチを展開し、これらを連動させ、最終的には個人・家族から担当地区全体へと統合させていく」としている（三輪，2017，p.6）。文献8は、「個」の健康課題を「地域の健康課題」として捉え、「地域の力」を見つけ「地域のあるべき姿」を住民とともに描き、あるべき姿に向かって「地域が動く」、連携調整の連続であり、「集団」も人の集合体であり、すべてが「人」と「人」の関係であるとしている（守田ら，2013，pp.8-11）。

IV. 考察

公衆衛生看護学の教科書的な文献において説明されている保健師活動は、以下のように整理できると考える。

1. 保健師活動を説明するときに基盤となっている考えと看護の説明

保健師活動を説明するときに基盤となっている考えは、まず、地域看護、公衆衛生看護、在宅看護について、文献1と3にあるように、在宅看護は療養者と家族を対象とした看護活動、公衆衛生看護は個人・家族に加えて集団や地域住民全体を対象とした看護活動を指し、地域看護は両方を含むより広い捉え方である。

文献2と5にあるように公衆衛生看護は、保健師活動と重なる意味であり、個人への援助と地域への援助、予防、健康やQOLの向上、組織的とりくみ、施策化・政策化といった内容が含まれる。

また、公衆衛生は、社会の責任で組織的努力によって行うもの、住民と地域全体の健康状態をよりよくするものであり、公衆衛生看護は、看護の立場で行う公衆衛生活動である。

看護の説明としては、考え方としての対象の主体性、生活を支える、ニーズにこたえるなどの指摘があり、文献5と6にあるように、看護過程は、患者等の個人を対象とした看護と公衆衛生看護では同じである。文献7に示すよう

に、公衆衛生看護は、集団を対象と考えることや働きかけることに特徴があり、看護活動が拡大してきたと考えることができる。また、文献8にあるように、対象者の行動変容を促すために、対象と保健師が相互に理解し、信頼関係を構築し、課題解決に向けて対象者自身が行動していく方向に向かう、というかかわりを看護の基本的な技術の一つと考えることができる。

2. 保健師活動の目的、対象、方法

保健師活動の目的は、全文献にあるように住民の健康のための活動であり、住民の意識向上、主体的な取り組み、資源活用を促すという方向性がある。また、文献2と3にあるように、人々の生活の質や豊かさも重視し、さらに、文献3と7にあるように、社会資源の充実や助け合える地域社会、生活しやすい地域社会となることを目指している。

保健師活動の対象は、個人、家族、集団、地域など複数が考えられ、対象である個人と集団や地域は関連がある。

保健師活動の方法は、個人を対象とした看護と同じく、看護過程あるいはPDCAサイクルといった問題解決の展開過程で説明できる。また、保健師活動には、体制づくりが含まれ、個への援助と地域への援助は連動しており、保健師活動は、多様な手段を連動させ同時進行させる総合的な展開で行われるものと言える。

3. 看護モデル開発の検討において取り上げる事例や看護モデルの内容として必要な要素

看護モデル検討時に取り上げる事例は、公衆衛生看護とは、として文献1で対象集団全体を視野におく、文献4で全住民を対象、文献7で健康問題解決に向けた施策化、とあるように、個人への援助だけでなく、住民全体を視野に入れて地域の健康問題を解決することを目指した取り組みとする必要があると考える。地域資源の充実や体制づくり、助け合う地域社会を目指した取り組みであり、その実際を把握するという意味では、成果が出た事例を取り上げる必要がある。

また、看護モデルの内容として必要な要素は、文献2で保健師は直接的な個人へのケアを行いながら健康な地域づくりや施策化を行う、文献7で、地区住民と直接かかわりながら、個人・家族、集団・組織、地域を相互に関連させるとあるように、個人・家族への看護の展開過程と地域への看護の展開過程の両方が含まれ、その両者は関連することが必要と考える。

本取り組みは、JSPS 科研費 16K12343 による助成を受けて実施した。

本報告に関して、開示すべき利益相反関係のある企業・団体はない。

文献

- 荒賀直子，後閑容子．(2018)．第1章公衆衛生看護学概論 I 公衆衛生看護学とは 1 公衆衛生看護学の概念．荒賀直子，後閑容子（編），公衆衛生看護学.jp（第4版データ更新版）(pp. 3-12)．インターメディカル．
- 麻原きよみ．(2014)．第1章公衆衛生看護とは．麻原きよみ，佐伯和子，岡本玲子ほか（編），公衆衛生看護学テキスト1 公衆衛生看護学原論 (pp. 1-13)．医歯薬出版．
- 麻原きよみ，佐伯和子，岡本玲子ほか．(2014)．はじめに．麻原きよみ，佐伯和子，岡本玲子ほか（編），公衆衛生看護学テキスト1 公衆衛生看護学原論 (pp. iii - iv)．医歯薬出版．
- 春山早苗．(2019)．第3章公衆衛生看護活動の展開方法論 IV 地域ケア体制づくり 2. 地域ケア体制の構築．宮崎美砂子，北山三津子，春山早苗ほか（編），最新公衆衛生看護学（第3版）2019年版 総論 (pp. 286-298)．日本看護協会出版会．
- 春山早苗．(2019)．第3章公衆衛生看護活動の展開方法論 IV 地域ケア体制づくり 3. 地域づくり・まちづくり 1) 住民との協働による保健師活動．宮崎美砂子，北山三津子，春山早苗ほか（編），最新公衆衛生看護学（第3版）2019年版 総論 (pp. 298-304)．日本看護協会出版会．
- 池田智子，松浦賢長，金子仁子．(2017)．『保健の実践科学シリーズ』の発刊にあたって．金子仁子（編），保健の実践科学シリーズ 行政看護学 (p. iii)．講談社．
- 市川定子．(2019)．第3章公衆衛生看護活動の展開方法論 IV 地域ケア体制づくり 4. 事業化・施策化．宮崎美砂子，北山三津子，春山早苗ほか（編），最新公衆衛生看護学（第3版）2019年版 総論 (pp. 309-329)．日本看護協会出版会．
- 和泉京子．(2016)．第2部公衆衛生看護活動の展開 第1章保健指導．上野昌江，和泉京子（編），公衆衛生看護学（第2版）(pp. 56-62)．中央法規出版．
- 金川克子（編）．(2013)．最新保健学講座1 公衆衛生看護学概論（第3版）．メヂカルフレンド社．
- 金子仁子．(2017)．第1部地区活動 第1章地区活動．金子仁子（編），保健の実践科学シリーズ 行政看護学 (pp. 8-17)．講談社．
- 金子仁子．(2017)．第1部地区活動 第12章住民と行政が協働した地域づくり 第3節地域ケアシステムと保健師の役割．金子仁子（編），保健の実践科学シリーズ 行政看護学 (pp. 200-212)．講談社．
- 北山三津子．(2019)．第2章地区活動論 1 地区活動の基本と対象のとらえ方．宮崎美砂子，北山三津子，春山早苗ほか（編），最新公衆衛生看護学（第3版）2019年版 総論 (pp. 108-124)．日本看護協会出版会．
- 榎本妙子．(2018)．第2章地域保健活動のエレメント II 地域におけるグループ支援・組織化 4 地域ケアシステム．荒賀直子，後閑容子（編），公衆衛生看護学.jp（第4版データ更新版）(p169)．インターメディカル．
- 三橋美和．(2016)．第2部公衆衛生看護活動の展開 第2章技術・技法 A 家庭訪問．上野昌江，和泉京子（編），公衆衛生看護学（第2版）(pp. 63-80)．中央法規出版．
- 宮崎美砂子．(2019)．第1章公衆衛生看護学概論 1 公衆衛生看護とは何か．宮崎美砂子，北山三津子，春山早苗ほか（編），最新公衆衛生看護学（第3版）2019年版 総論 (pp. 1-24)．日本看護協会出版会．
- 三輪真知子．(2017)．第1部地区活動 序章行政保健師が行う公衆衛生看護活動の目的．金子仁子（編），保健の実践科学シリーズ 行政看護学 (pp. 2-7)．講談社．
- 守田孝恵（編著）．(2013)．展開図でわかる「個」から「地域」へ広げる保健師活動．クオリティ・ケア．
- 中村裕美子．(2018)．5章公衆衛生看護活動の展開 C 公衆衛生看護活動の方法 4. 地域へのアプローチ 5. 施策化・事業化へのアプローチ．標美奈子（著者代表），標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論（第4版）(pp. 104-106)．医学書院．
- 大野佳子．(2017)．第1部地区活動 第13章保健活動計画・評価技術 第1節健康問題の分析に基づく保健活動計画．金子仁子（編），保健の実践科学シリーズ 行政看護学 (pp. 217-219)．講談社．
- 佐伯和子．(2014)．第2章公衆衛生看護の対象 3. 活動の対象．麻原きよみ，佐伯和子，岡本玲子ほか（編），公衆衛生看護学テキスト1 公衆衛生看護学原論 (pp. 35-69)．医歯薬出版．
- 櫻木しのぶ．(2018)．第2章地域保健活動のエレメント I 地域保健活動過程と保健師活動 1 地域診断．荒賀直子，後閑容子（編），公衆衛生看護学.jp（第4版データ更新版）(pp. 97-116)．インターメディカル．

- 標美奈子. (2018). 1章公衆衛生看護の理念 A 公衆衛生看護の理念. 標美奈子(著者代表), 標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論(第4版)(pp. 2-6). 医学書院.
- 標美奈子. (2018). 6章公衆衛生看護活動の計画・実践・評価 A 公衆衛生看護活動の展開における地域診断. 標美奈子(著者代表), 標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論(第4版)(pp. 108-114). 医学書院.
- 曾我智子. (2016). 第2部公衆衛生看護活動の展開 第2章技術・技法 E グループづくり, 地域組織(育成)と活動支援. 上野昌江, 和泉京子(編), 公衆衛生看護学(第2版)(pp. 110-117). 中央法規出版.
- 田口敦子, 吉岡京子, 酒井太一ほか. (2005). 目的重視型保健活動モデルの実践. 看護研究, 38(6), 475-488.
- 都築千景. (2016). 第2部公衆衛生看護活動の展開 第2章技術・技法 F 地域活動論(地域診断・活動展開) 1 地域(コミュニティ)のとらえ方と地域診断. 上野昌江, 和泉京子(編), 公衆衛生看護学(第2版)(pp. 120-123). 中央法規出版.
- 上野昌江. (2016). 第1部公衆衛生看護概論 第1章公衆衛生看護学の概念. 上野昌江, 和泉京子(編), 公衆衛生看護学(第2版)(pp. 2-10). 中央法規出版.
- 渡部月子. (2018). 2章公衆衛生看護の対象 A 公衆衛生看護の対象の特徴. 標美奈子(著者代表), 標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論(第4版)(p. 24). 医学書院.
- 山口佳子, 森田桂, 加藤昌代ほか. (2014). 未解決の健康課題を地域ケアシステム構築によって解決する保健師活動の展開過程の特徴 ―概念モデル作成のための一考察―. 杏林大学研究報告(教養部門), 31, 21-31.

(受稿日 令和4年 8月 25日)

(採用日 令和4年 11月 16日)